「真実の神、永遠の命」　　2025 年 12 月 23 日

神の子の名を信じるあなたがたに、これらのことを書いたのは、あなたがたが永遠の命を持っていることを知ってほしいからです。何事でも神の御心に適うことを願うなら、神は聞いてくださる。これこそ私たちが神に抱いている確信です。私たちは、願い事を何でも聞いてくださると知れば、神に願ったことは、すでにかなえられたと知るのです。もし誰かが、死に至らない罪を犯しているきょうだいを見たら、神に願いなさい。そうすれば、神は死に至らない罪を犯した人に命をお与えになります。しかし、死に至る罪もあります。これについては、願い求めなさいとは言いません。不正はすべて罪ですが、死に至らない罪があります。神から生まれた人は誰も罪を犯さないことを、私たちは知っています。神から生まれた人は自分を守り、悪い者がその人に触れることはありません。私たちは神から出た者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。しかし、神の子が来て、真実な方を知る力を私たちに与えてくださったことを知っています。私たちは、真実な方の内に、その御子イエス・キリストの内にいるのです。この方こそ、真実の神であり、永遠の命です。子たちよ、偶像から身を守りなさい。（Ｉヨハネ 5：13～21）

著者は、「ヨハネ教団」に集い、神の子イエスを信じている信徒たちに、これらのことを書き送ったのは、あなたがたが永遠の命を持っていることを知ってほしいからであると書いている。そして、何事でも神の御心に適うことを願うなら、神は聞き入れてくださると確信している。願い事は何でも聞き入れてくださるから、神に願ったことは既に適えられたと知っている。ヨハネ福音書 15 章 16 節で、主イエスは、「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。あなたがたが行って実を結び、その実が残るようにと、また、私の名によって願うなら、父は何でも与えてくださるようにと、私があなたがたを任命したのである」と語っておられる。主イエスがあなたがたを選び、豊かに実を結び、その実が残り、主イエスの名によって神に願うものは何でも与えられるようにと、任命された。著者は、信徒たちに願い事は既に適えられていると、神の恵みの確かさを教えている。そこで、「もし誰かが、死に至らない罪を犯しているきょうだいを見たら、神に願いなさい。そうすれば、神は死に至らない罪を犯した人に命をお与えになります」と忠告している。ところが、「しかし、死に至る罪もあります。これについては、願い求めなさいとは言いません」と切り捨てている。「死に至る罪」とは、主イエスに対する信仰を捨てる罪、信仰によって救われることを拒否する罪であろう。そのような罪を犯す者のために、神に願えとは言わない。しかし、死に至らない罪を犯している者であれば、その者のために祈り、神に執り成しなさい。著者は、「不正はすべて罪ですが、死に至らない罪があります」と付け加えている。死に至る罪に陥らないように期待しているようである。だから、「神から生まれた者は誰も罪を犯さないことを、私たちは知っています」と続けている。神から生まれた者は自分を守り、悪い者の手に落ちることはない。私たちは神から出た者であり、この世は悪い者の支配下にあることを知っている。しかし、神の子イエスが来られて、真実な方・神を知る力を与えてくださった。私たちは真実な神の内に、その御子イエス・キリストの内にいる。主イエスこそが真実の神であり、永遠の命である。最後に、「子たちよ、偶像から身を守りなさい」と呼びかけ、偽りの神々の奴隷になって、自分の人生を見失うことのないように諭している。Ｉヨハネは神の愛をひたすら説いている嬉しい書簡である。